

D期：サクラソウの繁殖が停滞し、個体数（株数）の減少が始まったと推定される期間である。滞留地下水位と変動地下水位は、C期とほとんど変わっていない。また、サクラソウ群落を維持管理するための、植生に対する人為干渉も従前通りである。一方で、さくらそう公園など指定地周辺の開発は進み、指定地の涵養水はほとんど直接の降水だけとなり、天候の影響を強く受けるようになっている。この限られた涵養水が、サクラソウの繁殖に影響して減少傾向になっていると推定される。

なお、サクラソウやノウルシなどの出芽期が早まって、競争関係の変化が生じていることや、地表の乾燥化が著しくなるなど、気候温暖化の影響もあるように思われる。冷涼な気候を好むサクラソウにとって、気候の温暖化は生存の危機を招く要因になると思われるので、せめて湿生植物として生育するために必要な水環境を整備することが、特別天然記念物を維持するための重要な条件となろう。